

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年8月8日

【四半期会計期間】 第91期第1四半期(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

【会社名】 旭有機材工業株式会社

【英訳名】 ASAHI ORGANIC CHEMICALS INDUSTRY CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 亀井啓次

【本店の所在の場所】 宮崎県延岡市中の瀬町二丁目5955番地

(同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記で行なっております。)

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 東京都港区浜松町二丁目4番1号

【電話番号】 東京 03(3578)6001

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部長 桑田雅之

【縦覧に供する場所】 旭有機材工業株式会社東京本社

(東京都港区浜松町二丁目4番1号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第90期 第1四半期 連結累計期間		第91期 第1四半期 連結累計期間		第90期	
	自 至	平成22年4月1日 平成22年6月30日	自 至	平成23年4月1日 平成23年6月30日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高 (百万円)		7,195		8,433		32,667
経常利益又は経常損失( ) (百万円)		40		184		1,035
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失( ) (百万円)		196		157		224
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)		319		168		29
純資産額 (百万円)		38,714		38,553		38,678
総資産額 (百万円)		50,031		52,777		52,947
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額( ) (円)		2.01		1.61		2.29
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		77.3		73.0		73.1

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第90期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、管材システム事業において、当社の連結子会社である中部旭有機販売(株)は、平成23年4月1日付で当社の連結子会社である旭有機販売(株)を存続会社とする吸収合併により解散しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、東日本大震災の影響によるサプライチェーンの寸断や電力供給の問題、中東・北アフリカの政情不安による原油価格の高騰懸念、米国の景気回復の遅れや欧州の財政危機等による円高の継続など先行き不透明な状況で推移しました。一方でアジアを中心とした新興国経済は堅調に推移しました。

このような事業環境の中、当社グループにおいては、管材システム事業は東日本大震災の復旧に伴う需要増加や米国子会社の好業績などにより好調に推移しました。一方、樹脂事業は東日本大震災の影響による自動車産業の生産減や原材料の高騰などにより厳しい状況で推移しました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,433百万円(前年同期比17.2%増)となり、営業利益は159百万円(前年同期の営業損失は58百万円)、経常利益は184百万円(前年同期の経常損失は40百万円)、四半期純利益は157百万円(前年同期の四半期純損失は196百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 管材システム事業

国内の民間設備投資は全体では弱い動きで推移したものの、東日本大震災の復旧に伴う需要増加に伴い主力の配管材料の売上は前年同期を上回りました。海外においては、中南米市場を開拓した米国子会社が好業績を維持し、アジアでも韓国をはじめとする半導体・液晶業界が好調に推移し、Dymatrix製品や電子機器向け洗浄装置の売上が伸びました。このような中で、販売においては、販売子会社の統合の実施など営業体制の強化を図り、製造においては、生産拠点集約などの生産効率の向上、物流コスト削減などを進めました。

その結果、当セグメントの売上高は5,635百万円(前年同期比25.6%増)、営業利益は327百万円(前年同期の営業損失は107百万円)となりました。

## 樹脂事業

主要仕向け先である自動車産業は、東日本大震災の影響により生産が大幅に落込み、サプライチェーンの急速な復旧などから回復基調ではあるものの、震災前の水準には届かない状況が続き、当社の鋳物用樹脂及びレジンコートサンドの売上は伸び悩みました。一方、工業用樹脂や中国の樹脂製造販売子会社の売上は好調に推移しました。ノンフロン現場発泡システムをもつ発泡材料用樹脂については、拡大に向け積極的に販売促進活動を続けました。これらの結果、売上高は前年同期を上回りました。しかし、国内の生産稼働率が低下したことや、主要原材料調達先の被災を受け、原材料確保が厳しい状況により調達価格が高騰したことなどから収益が圧迫されました。

その結果、当セグメントの売上高は2,798百万円(前年同期比3.3%増)、営業損失は131百万円(前年同期の営業利益は67百万円)となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産は52,777百万円となり、前連結会計年度末に比べ170百万円減少しました。これは原材料確保等による流動資産の増加を、投資有価証券を売却したことなどによる固定資産の減少が上回ったことによるものであります。負債は14,224百万円となり、前連結会計年度末に比べ45百万円減少しました。これは主に短期借入金の減少によるものです。純資産は38,553百万円となり、前連結会計年度末に比べ126百万円減少しました。これは配当金が四半期純利益より多かったためです。

## (3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発活動の総額の金額361百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	199,000,000
計	199,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	99,002,000	99,002,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数：1,000株
計	99,002,000	99,002,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年6月30日		99,002		5,000		8,479

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,242,000		
	(相互保有株式) 普通株式 214,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 97,049,000	97,049	
単元未満株式	普通株式 497,000		
発行済株式総数	99,002,000		
総株主の議決権		97,049	

(注) 1 証券保管振替機構名義等の失念株式はありません。

2 「単元未満株式数」には、相互保有株式〔旭エー・ブイ産業(株)保有1,549株〕及び自己株式897株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 旭有機材工業(株)	宮崎県延岡市中の瀬町 二丁目5955番地	1,242,000		1,242,000	1.3
(相互保有株式) 旭エー・ブイ産業(株)	東京都千代田区神田司町二 丁目2番12号	168,000	46,000	214,000	0.2
計		1,410,000	46,000	1,456,000	1.5

(注) 旭エー・ブイ産業(株)は、当社の取引先会社で構成される持株会(旭有機材代理店持株会 東京都港区浜松町二丁目4番1号)に加入しており、当持株会名義で当社株式を所有しております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,360	3,217
受取手形及び売掛金	12,746	12,458
有価証券	78	76
たな卸資産	6,892	7,601
その他	948	978
貸倒引当金	38	29
<b>流動資産合計</b>	<b>23,985</b>	<b>24,301</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	13,526	13,598
土地	6,044	6,039
その他(純額)	7,482	7,559
無形固定資産	249	297
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	10,294	9,712
その他	4,921	4,897
貸倒引当金	29	29
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>15,186</b>	<b>14,580</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>28,962</b>	<b>28,475</b>
<b>資産合計</b>	<b>52,947</b>	<b>52,777</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	6,904	7,210
短期借入金	1,500	1,400
未払法人税等	140	57
引当金	-	341
その他	2,921	2,527
<b>流動負債合計</b>	<b>11,466</b>	<b>11,536</b>
<b>固定負債</b>		
退職給付引当金	1,267	1,282
役員退職慰労引当金	285	164
その他	1,251	1,242
<b>固定負債合計</b>	<b>2,803</b>	<b>2,688</b>
<b>負債合計</b>	<b>14,269</b>	<b>14,224</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,479	8,479
利益剰余金	26,226	26,093
自己株式	555	555
<b>株主資本合計</b>	<b>39,151</b>	<b>39,017</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	4	40
為替換算調整勘定	477	424
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>473</b>	<b>464</b>
<b>純資産合計</b>	<b>38,678</b>	<b>38,553</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>52,947</b>	<b>52,777</b>

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	7,195	8,433
売上原価	4,984	5,999
売上総利益	2,211	2,435
販売費及び一般管理費	2,269	2,276
営業利益又は営業損失( )	58	159
営業外収益		
受取利息	8	2
受取配当金	18	22
持分法による投資利益	2	10
有価証券償還益	90	-
為替差益	-	3
その他	12	9
営業外収益合計	131	46
営業外費用		
支払利息	1	6
複合金融商品評価損	54	12
為替差損	47	-
その他	11	3
営業外費用合計	113	21
経常利益又は経常損失( )	40	184
特別利益		
固定資産売却益	15	62
投資有価証券売却益	-	5
特別利益合計	15	66
特別損失		
固定資産除却損	3	1
退職特別加算金	286	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	19	-
特別損失合計	307	1
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	332	249
法人税等	133	92
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	199	157
少数株主損失( )	3	-
四半期純利益又は四半期純損失( )	196	157

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	199	157
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	138	41
為替換算調整勘定	22	53
持分法適用会社に対する持分相当額	3	1
その他の包括利益合計	120	11
四半期包括利益	319	168
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	316	168
少数株主に係る四半期包括利益	3	-

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
税金費用の計算	主として当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
	当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
受取手形割引高	113百万円	108百万円
受取手形裏書譲渡高	22	3

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
減価償却費	416百万円	369百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	293	3.00	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	293	3.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結財務 諸表計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,487	2,708	7,195		7,195
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	4,487	2,708	7,195		7,195
セグメント利益又は損失( ) (営業利益又は損失( ))	107	67	40	18	58

(注) セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない基礎研究開発費及び報告セグメントが負担する一般管理費及び研究開発費の配賦差額)であります。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結財務 諸表計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,635	2,798	8,433		8,433
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	5,635	2,798	8,433		8,433
セグメント利益又は損失( ) (営業利益又は損失( ))	327	131	196	37	159

(注) セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない基礎研究開発費及び報告セグメントが負担する一般管理費及び研究開発費の配賦差額)であります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )	2円01銭	1円61銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(百万円)	196	157
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )(百万円)	196	157
普通株式の期中平均株式数(千株)	97,701	97,678

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月 5日

旭有機材工業株式会社  
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 大塚 啓一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 真美

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている旭有機材工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、旭有機材工業株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。